さけます展示施設のページ　　札幌市豊平川さけ科学館

平林（ひらばやし）　幸弘（ゆきひろ）（さけますセンター 業務推進部・現水産庁 増殖推進部）

豊平川

写真　（上）札幌市の中心部へと流れる豊平川．河畔の緑地は市民にとって憩いの場となっている．（下）豊平川に沿って続く柵．描かれているのはもちろんサケ．

本 館

写真　①②③展示ホールにはサケの産卵ジオラマや映像プログラムなど，サケの生態を中心とした展示が並ぶ．④数多くのサケの仲間の幼稚魚が飼育されている飼育展示室．中にはミヤベイワナやサツキマスなど貴重な魚も．⑤⑥地下観察室は，水槽もそこにいる魚も大きい．秋にはサケの親魚も泳ぐ．写真はメスの親魚．

豊平川は石狩川の支流の一つで，札幌市のほぼ中央を流れています．かつては河川環境の悪化によって，川にサケの姿を見ることができなくなりました．しかし現在では，サケが毎年遡上して自然産卵を繰り返す，世界的にも貴重な都市河川へ再生し，市民の憩いの場となっています．この冊子を手にする方ならきっと「カムバックサーモン運動」って聞いたことがあるでしょう？その運動が生まれ，すばらしい成果を上げたのが豊平川です．

豊平川さけ科学館は，札幌の都心から南へ 5 km 程の真駒内公園の中にあり，すぐ横には豊平川とその支流真駒内川が流れています．カムバックサーモン運動に共感し，豊平川のサケを大切に思う市民らの声によって，昭和 59 年に開館しました．その活動は，サケに関する展示やふ化放流のほか，調査研究，情報発信，学習会や観察会の開催等々…，サケや豊平川の生き物について様々な分野に及びます．

施設は，本館，野外かんさつ池，さかな館，実習館の 4 つのパートからなり，本館に入ってすぐのホールにあるサケの産卵ジオラマから見学はスタート．このホールにはサケの生態などを解説する展示が並び，その奥には，たくさんのサケの仲間が飼育されています．さらに進むと，野外かんさつ池には 1 m 程もあるイトウが泳ぎ，さかな館には豊平川に棲む，身近だけど詳しくは知らないたくさんの生き物が待っています．

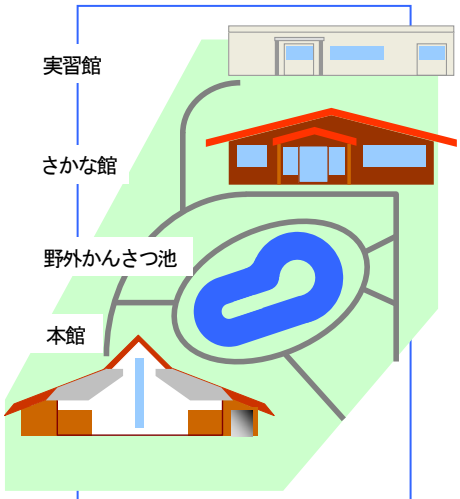
さけ科学館のお勧めポイントを，ここを最も良く知る職員の方に聞いてみました．お話してくれたの

ひと

今回お話を伺ったさけ科学館の岡本康寿さん．穏やかな語り口と笑顔で，「年間を通して楽しいイベントをたくさん開催しています．どんどん参加してほしいですね．」と話す．

さかな館 実習館

写真　（上，左下）さかな館には，ナマズやウグイ，ヌマガレイ，魚だけでなくカエルやエビなど，知っているようで知らない生き物たちがたくさん．（右下）実習館で行われていたサケ皮加工などの工作実習．



館内施設の配置

野外かんさつ池

写真　（左）本館の裏手にある野外かんさつ池．秋に訪れたときには，1m ほどもあるイトウ（右）が悠々と泳いでいた．イトウは河川生態系の頂点に立つ魚種であり，絶滅危惧種でもある．（下）別の区画にはサケのペアが収容されていた．タイミングが合えばメスが産卵床を掘る様子を観ることもできる．

は，職員の中で最古参，リーダー的な存在の岡本康寿さん．「一番は，川へ行って実際に魚の採集や観察をする“さかなウォッチング”や“サケ観察会”ですねぇ．一度やったらハマりますよ．」実際，常連さんもいて，100 人以上の参加者が集ることもあるとか．ほかにも，体験放流や採卵実習など，年間を通して多くの行事を行っているそうです．また，川や魚，自然に触れる機会の少なくなった今の子供たちについて「最初はここで展示物や水槽を見て興味を持ってもらい，それをきっかけとして，実際に川へ行って生き物たち本来の姿を見てもらえたら良いですね．」と，目標の一つを語ってくれました．

さけ科学館を訪れる人は年間 8 万人．最近では台湾，香港など海外からの来館者も増えたそうです．とはいえ，開館以来，多いのはやはり市内の児童生徒や地元市民．さらに，市民の中にはボランティアスタッフとして，業務をサポートする方もいるとか．さけ科学館は，その誕生から現在まで，市民との繋がりが本当に深いのだなぁと感心．ちなみに入館料は無料です．さすが市民のさけ科学館．

札幌市豊平川さけ科学館
北海道札幌市南区真駒内公園 2-1
TEL 011-582-7555
入 館 料　無料
開館時間　9 時 15 分 ～ 16 時 45 分
休 館 日　毎週月曜日
12 月 29 日 ～ 1 月 3 日